

# ❀卒業プロジェクト❀

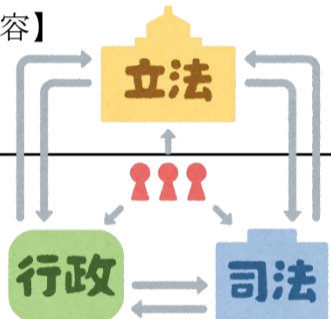
## ～新曾小にレガシーを残そう～

### 内容ベースのつながり

- 国語
- 私と本「森へ」
  - 私たちにできること
  - 日本文化を発信しよう
  - 学級討論会をしよう
- 【つなげたい内容】  
発表資料作成  
プレゼンテーション  
自分の考えを伝える



- 社会
- わたしたちのくらしと日本国憲法
  - 国の政治のしくみと選挙
- 【つなげたい内容】  
三権分立  
日本国憲法



- 算数
- データの特ちょうを調べて整理しよう
- 【つなげたい内容】  
データの活用



- 理科
- 私たちの生活と電気
- 【つなげたい内容】  
プログラミング教材の  
利活用 (MESH)



- 道徳
- マナーからルールへ、そしてマナーへ
  - いらなくなったきまり
- 【つなげたい内容】  
きまりの意味



- 特別活動
- 新曾小まつりのお店を決めよう
  - 6年生を送る会
  - 感謝の会
  - まとめの会
- 【つなげたい内容】  
自分の思い・考えを伝える



### ガイダンス

・昨年度の卒業生が残してくれたメッセージ「社会は自分たちの手で変えられる」をテーマに、在校生がコロナ禍後の学校でより楽しく過ごすために、自分たちにできること・残せることを考える。

また、取り組みを来年度の最高学年に引き継ぐため、「新曾小にレガシーを残そう」という合い言葉を設定する。

- プロジェクトの内容を検討する
- 新曾小の魅力や課題を考える。

### フェーズ①

「1年生に学校紹介をして、もっと楽しい学校にするイベントを企画・運営しよう！」

- ・1年生に新曾小を紹介して、自分たちの学校を客観的に見つめ直し、学校のもつよさや課題に気付く。
- ・自分たちが下級生だった時に上級生から関わってもらった経験から、1年生との交流イベントについて考える。
- ・実際にイベントを運営し、成果と課題を整理する。

- 1年生のための交流イベントの成功体験から、視点を全校規模に広げて活動していきたいという意欲をもつ。
- 交流イベントを学校公開日に設定することで、保護者の目から見たイベントの評価をもらい、次の活動につなげる。

### フェーズ②

「全校児童が楽しめるイベントを企画し、学校全体をより魅力的にしよう！」

- ・自分たちが下級生だったコロナ禍前の経験から、自分たちにできることを考える。
- ・学級内でグループを組み、イベントの企画書を書く。
- ・学級・学年で案を発表し合い、改善点を出し合う。
- ・校務運営委員会に提案する資料をつくり、実際に提案する。

- 1年生との交流イベントの経験や、自分たちが下級生だった時の経験を想起させる。
- イベントなどの企画を実際に行うための、会議提案の流れを体験的に知る。

### フェーズ③

「新曾小にレガシーを残せるよう、来年の6年生に取り組みを引き継ごう！」

- ・活動をふり振り返り、自分たちの手で学校や社会をつかっていけることに気づく。
- ・1/27 (土) のプレゼン大会に向けたプレゼン作りと、企画を運営して出てきた課題の改善を図る。
- ・来年の最高学年に取り組みを引き継げるよう、引き継ぎ資料をつくる。

### 資質・能力ベースのつながり

- 国語
- 聞いて考えを深めよう
  - みんなで楽しく過ごすために
- 体育
- 表現
  - フラッグフットボール
  - みらい学習科
  - セサミストリートカリキュラム (戦略と役割分担)
- 特活
- クロムブックのルールメイキング

### 協働力

- ・課題解決のためには、互いのよさや力を活かしていくことが重要であると気付いている。

- 国語
- 思い出を言葉に
  - 大切にしたい言葉
- 音楽
- 曲想の変化を感じ取ろう
- 家庭科
- 共に生きる生活
- 道徳
- 夢に向かって

### 自ら進んで学びに向かう力

- ・目的意識を持って、最後まで見通しをもって粘り強くやりぬこうとしている。

- 国語
- 時計の時間と心の時間
- 体育
- 跳び箱運動
- 家庭科
- 共に生きる生活
- 社会
- 世界の未来と日本の役割
- 理科
- 生物と地球環境

### 問題解決力

- ・自分のやりたいことや気になることを見つけることができる。
- ・リサーチやフィードバックから得た情報から、「自分ができること」を考え、解決のための計画を立てることができる。
- ・多様な見方から情報の真偽を判断し、目的に即した情報を収集することができる。
- ・見出した問題の原因や解決策を、ICT や思考ツールを使って、相手の立場に立った分かりやすい伝え方でまとめることができる。
- ・他者と比較しながら、活動のよかったところや改善点を正しく評価し、次の活動の見通しをもつことができる。